

令和7年度 第1回富津市総合教育会議 会議録

R7.12.18

発言者	発言内容
山下教育長	<p>ただ今から、令和7年度第1回富津市総合教育会議を始めます。</p> <p>本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定により、原則公開となっており、既に入室していただいております。</p> <p>それでは、次第に沿いまして会議を進めてさせていただきます。</p> <p>まず始めに、市長から御挨拶を申し上げます。</p>
高橋市長	<p>おはようございます。</p> <p>今年第1回目の富津市総合教育会議となります。教育委員の皆様には、お忙しい中御出席をいただきましてありがとうございます。また皆様には日頃から富津市の教育行政を推進に対しまして、多大なるご尽力いただいており、感謝を申し上げる次第です。今年度から山下教育長となり初めての会議でありますので、議題の中で様々な御意見をいただけすると大変ありがたいと思います。</p> <p>さて、富津市におきましては、令和6年2月に改定をいたしました、富津市教育施策を中心として、これまでの継続した取組のほか、新たに設定した施策の達成に向けて日々取り組ませていただいております。大きな事業を申し上げますと、既に皆様もご承知の新共同調理場を4月に開場し、順調に稼働しております。アレルギー除去食に関しましても、2名の児童生徒に提供しており、無事に対応できているということですので、今後もしっかりと努めていきたいと思います。</p> <p>また、子どもたちに大変な不便をおかけしてきた大佐和中学校屋内運動場ですが、こちらに関しましても、工事が順調に進行しており、年明けには完成する見込みであります。最終的な確認をしたうえで、大佐和中学校の生徒たちに、良い環境での教育の場として活用していただけるように準備を進めていきたいと思っております。</p> <p>また、文化財の関係に話を移させていただきますと、鋸山ですがここ数年、毎年色々なチャレンジをして参りましたが、今年度末に再度、日本遺産の登録に向けて申請をさせていただく予定です。これまでの流れから、決して低いハードルではないと感じていますが、地元の皆さんや関係者の方に大変なご尽力もいただいておりますし、担当も本当に一生懸命汗をかいてくれていると思っていますので、何とか今回こそ日本遺産という立場</p>

	<p>が取れるように頑張って参りたいと思います。</p> <p>内裏塚古墳につきましては、9月に周辺7つの古墳と併せて内裏塚古墳群として国史跡に追加されました。今後も保存と活用についてしっかりと検討し、国の施策を十分に活用しながら富津市としてできることを、着実に進めて参りたいと思っております。</p> <p>本日は、今後の学校教育に関する重点施策について委員の皆様と協議をさせていただきたいと思います。教育の施策のまさに中心となる重要なテーマであると考えておりますので、皆様から忌憚のないご意見をお寄せいただきますようにお願い申し上げまして、簡単ではございますが挨拶に変えたいと思います。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。</p>
山下教育長	<p>ありがとうございました。</p>
高橋市長	<p>次に会議録署名人の指名ですが、富津市総合教育会議運営要領第4条第3項の規定により、市長及び会議において指名された委員にお願いすることになりますので、市長は、会議録署名人の指名をお願いいたします。</p>
山下教育長	<p>はい。会議録署名人は、山下教育長にお願いいたします。</p>
細谷参事	<p>承知いたしました。</p> <p>それでは、早速ですが議事に入らせていただきます。</p> <p>はじめに報告事項として、富津市学校教育の現状と課題、令和7年度学校教育に関する重点施策について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>はい。それでは、お手元の資料に沿って説明させていただきます。</p> <p>まず、市内の学校の現状でございます。</p> <p>各学校の管理職からは、「学校は落ち着いており、子どもたちは素直で、保護者や地域も協力的である」という声が多く寄せられております。学校訪問におきましても、児童生徒と教職員の間に良好な関係が築かれている様子が見られ、暴力行為や重大ないじめ事案もゼロ件と、比較的安定した状況が続いております。</p> <p>一方で、全国学力学習状況調査や県標準学力テストの結果では、市全体として県平均を下回っている教科があること、不登校率が市全体で4.98%と県平均より高いことが課題となっております。</p> <p>「富津を愛し、未来を託せる児童生徒の育成」のためには、学力向上と不登校の解消に継続して取り組む必要がございます。</p> <p>次に、学校ごとのデータについて簡潔に申し上げます。</p>

	<p>市内 8 小学校・3 中学校それぞれにおいて、児童生徒数、特別支援学級の状況、県費職員の配置状況には差があり、特に小規模校では複式学級への対応や人的配置が課題となる場面がございます。こうした学校規模の違いを踏まえつつ、児童生徒の学びを等しく保障する体制づくりが求められております。</p> <p>続きまして、教職員人事の課題についてです。</p> <p>本市は中学校が 3 校と少ないとことから、市内での異動が限られます。また、市内在住の教職員が君津管内 4 市のうち 7.2% と少なく、さらに、新規採用教職員は一度市外に出るとなかなか戻ってこない傾向があります。こうした人事上の制約や傾向から、市内に優秀な教職員を確保し、継続的に育成することが重要な課題となっております。</p> <p>次に、今年度の重点施策について御説明いたします</p> <p>ア. 読書活動の推進は、学力向上の基盤となる読解力を育てるため、これまで「読書の日」の設定、読書支援員の配置などにより、読書活動の充実を進めてまいりました。学校では本に親しむ子どもが増えましたが、家庭での読書習慣が十分に定着しておらず、学力向上との関連がまだ明確に表れていない状況です。今後、学校・家庭双方での取組の強化が必要と考えております。</p> <p>イ. 「授業でカエル」による授業改善は、子どもたちが授業の中で「できた」「わかった」と実感できる時間を増やすことを目的に、教職員が自らの授業を振り返り、改善を重ねていく取組でございます。授業の質が向上することは、学力の向上だけでなく、学校が楽しくなることで不登校の改善につながり、また、落ち着いた学級づくりや社会性の育成にも良い影響をもたらします。まさに、多くの教育課題の解決につながる基盤となるものです。今年度から本格的にスタートし、教職員の意識は高まりつつありますが、授業改善は一朝一夕には進まず、今はまだ取組を定着させていく段階でございます。今後は、管理職による日常的な授業指導、指導主事の活用、校種を超えた相互授業参観、研修機会の充実などを図り、組織として継続的に授業改善が進む体制を整えて参りたいと考えております。</p> <p>ウ. 富津市の環境や風土を生かした学習は、内裏塚古墳群や鋸山など、注目される地域資源を学習に活かし、郷土への誇りと愛着を育てる取組を進めております。ふつづ検定、校外学習、体験的活動など、地域と結びつい</p>
--	--

	<p>た学びをさらに充実させるため、新しい素材や新たな学習活動について検討して参りたいと考えております。</p> <p>エ. 課題に対応した市雇用職員の活用は、自立支援指導員、学力向上補助教員、特別支援教育指導員、読書支援員、英語指導員、ICT指導員、ALT等、市雇用職員が学校現場を支え、安定した教育活動の維持に大きく寄与しています。今後も学校の課題に応じた適切な配置と役割の明確化を図り、多様な学びを支える体制づくりを進めてまいります。</p> <p>以上です。</p>
山下教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、只今の説明について、委員の皆様から御質問等ございますか。</p> <p>はい。藤平委員。</p>
藤平委員	<p>管理職の評価で、とても落ち着いている、素直であるという評価がありました。しかし、素直というと従順で積極性に欠けるという捉え方もできるのですが、学校としてはどのように捉えているのかお聞きします。</p>
細谷参事	<p>素直であるということを、子どもらしいと捉えています。問題行動が多いということではなく、落ち着いている、保護者、指導者と子どもの関係も良好であることをプラスに捉えて素直という表現をしています。</p>
山下教育長	<p>人懐っこいことや、我々が目指している「あったかふつつ」の要素も見えますが、先日の議場コンサートに来た環小の児童も、市長や議長が話をしている間に、目を見て話が聞けるというところからも素直さや純粋さを感じました。</p> <p>他にございますか。</p>
嶋野委員	<p>教職員人事の中で、③の一度市外に出ると戻ってこない傾向にあるということですが、本人の希望により戻ってこないのでしょうか。</p>
細谷参事	<p>人事異動に関しては、勤務年数に応じて異動対象というものがあり、例えば同じ学校に7年以上、同一市町村に10年以上いると異動対象として市外に出る場合があります。毎年人事希望調査があり、各々が異動になった場合の希望の勤務地を記載する欄がありますが、その希望欄に富津市と書かないと市内への異動リストから外れてしまいます。富津市を希望した教職員が富津市への異動となるので、富津市を希望してもらうことが大事ですが、現状は希望が少ない状況です。今後も、教育委員会として富津市の魅力を伝え、富津市を希望してもらえるような努力をしていきたいと思</p>

	ます。
嶋野委員	つまり、教員として富津市で働くことは人気がないということですか。
細谷参事	元の人数が少なく、君津管内の4市で7.2%の職員しか富津市在住ではないので、市外在住者でも通勤時間の関係で富津市を希望することもありますが、全体の中だと少ないです。
山下教育長	君津管内4市の異動において、詳しく調査したわけではないですが、木更津市や君津市と書いた方が通勤面など様々対応しやすいことから、希望が多くなる傾向があります。 他にございますか。
	無いようですので、続いて議題に入ります。
	「今後の学校教育に関する重点施策」について、事務局から説明をお願いします。
中山部長	それでは、協議事項の「今後の学校教育に関する重点施策について」御説明いたします。 先程、令和7年度学校教育に関する4つの重点施策、取組を御説明いたしました。令和8年度以降も重点的な取組は継続していきますが、取組をさらに広げたり、学校が効果を実感できるような工夫など、皆様からアイディアを頂戴したいと思います。
	資料に記載しました4つの視点について、意図を御説明いたしますので、御意見をお寄せください。
	まず1点目は、「社会性の育成のためにあいさつ運動の一斉展開」です。言うまでもなく、挨拶はコミュニケーションの第一歩です。子どもたちは自分のした挨拶に、相手から挨拶が返ってきたら、認められたと感じてうれしくなります。相手の肯定的な反応によって、子どもたちは成就感や自己肯定感が高まります。それが学習意欲に結びつくことはもとより、お互いを認め合える学級、学校は子どもにとって安心できる環境となり、とても良い雰囲気となります。そして、それが学校全体、さらには地域にも広がっていけば、子どもたちは地域のみなさんとのつながりを感じ、地域への愛着を強めることにもつながると私たちは考えています。これまでそれぞれの学校で挨拶運動には取り組んでおりますが、より挨拶の輪を広げる手立ての提案、アイディアをお寄せいただきたいと思います。
	次に2点目は、「富津市の環境や風土を生かした学習の推進」です。富津

山下教育長	<p>市教育施策に位置付ける「学校教育の充実」では、具体的な取組の1つとして、自分が暮らす富津市についての学習を推進しています。さまざまな切り口から富津市について知り、関心を寄せることで、ふるさとを大切にしたいという気持ち、より良くしたいという気持ちを育むよう、体験的な学習やモノや場所の見学の機会の充実に努めています。そのためには教職員自身が富津市のことや学校のある地域を知ってその魅力に触れることがとても大切だと考えています。新たな素材、場所、もの、人は問いません。おすすめのもの、大切にしてほしい富津市の財産を教えてください。子どもたちに伝え、また、内裏塚古墳群や鋸山の新しい活かし方も併せて教えていただきたいと思います。</p> <p>3点目は、「『授業でカエル』の一層の推進」です。先程報告の1で富津市の学校教育の現状と課題を御説明いたしました。学力の向上や不登校、生徒指導上の問題などは別々のところに存在する課題ではないと捉え、教職員が毎日、毎時の授業での子どもたちとの関わりによって、課題解決につなげる意識を持とうとするものです。子どもたちが安心して学習ができ、落ち着いて授業に臨むことができると、様々な課題解決につながると 생각ています。今年度からの取組みではありますが、約9か月が過ぎ、教職員の授業に向かう意識に変化は出てきたのではと思っています。一層推進するため、どのようなことが有効かお考えをお聞かせください。</p> <p>4点目は「人材育成の必要」です。これまでの3点は子どもたち一人一人が安心して学べる学校環境に着目しましたが、4点目は、「人材育成」です。目指す学校の姿に近づけるよう取り組むには、教職員の力が不可欠です。今子どもたちと向き合っている一人一人が力をつけ、落ち着いた学級経営ができるように育成すること、そしてさらに学校経営とつなげることも必要です。これからの中学校における有効な人材育成の手立てについて、様々な視点からのお考えを伺いたいと思います。</p> <p>4点以外にも今の学校教育に関して、必要だと思われるございましたら、お寄せください。また、今までとはまったく別の角度からの見方でも、子どもたちの生き生きとした姿を引き出すアイディアなど是非、お聞かせください。</p> <p>以上です。</p> <p>ただいま議題について説明がありました。</p>
-------	--

	<p>委員の皆様から御質問・御意見等を頂戴しながら議論をしていきたいと思います。どなたかございますでしょうか。</p> <p>(3) の「授業でカエル」は、積極的な取組が素晴らしいと思います。授業改善には、先生方の授業スキルや、質の向上が必要不可欠ですが、この点については働き方改革と連動し、セットで考えていくべき課題だと感じます。働き方改革というと、勤務時間の短縮などが注目されますが、本来は先生方の業務内容を見直し、アウトソーシング化を図り、本来教員が取り組むべき授業の改善や教育の質の向上、あるいは子どもたちと向き合う時間を作りだすためだとも思います。また、働き方改革はそれ自体が目的ではなく、教員が心身ともに余裕を持ち、充実して働く環境整備をするのが本来の目的であり、働き方改革自体は手段に過ぎないと思います。子どもたちの有益な教育のための策であると思いますので、目的と手段を履き違えることなく働き方改革を進めることで、授業の質の向上に繋げて欲しいです。そのために先生方の授業がどう改善されているか、定期的に第三者による客観的な評価をする仕組みが必要だと思います。「授業でカエル」は非常に大事なことだと思いますので、今後も積極的に進めて欲しいです。</p>
<p>山下教育長</p>	<p>第三者による評価は、「授業でカエル」で教員の意識が変化している話は出ているが、実際に授業を変えなくてはいけないと思い、どう授業改善していくか、校長会と一緒に考え、話し合い、授業改善すべき点を富津市全体で共通していきたいと考えています。</p> <p>また、南房総教育事務所の指導主事に頻繁に来ていただき、学期ごとに授業でどう変わったのか評価していただく機会を作っています。</p> <p>他にございますか。</p>
<p>藤平委員</p>	<p>通常学級の児童生徒に関する授業改善の話がありましたが、富津市では特別支援学級の数も児童生徒数の割に数が多く、手厚く対応をしていると捉えています。一方で、特別支援学級の児童生徒が共生社会の中で生きていくにあたって、別の環境の中で教育を受ける時間が長くなってしまう状況は良くないのではと思います。一人ひとりの児童生徒のニーズにあった教育をするために特別支援学級で手厚く対応をしていくことについては個々の理解を深め、何がこの子にとって将来生きる力になるのか、担任が見極め、捉えて指導していくことが一番重要だと思います。</p>

	<p>学校を訪問し、特別支援学級の授業を拝見した際、作業をしている場面を多く見ます。それよりも、読む、書く、計算する、人と関わり自分の得意を伸ばすといった視点が大切だと思います。特別支援学級の担任をサポートする先生を市として配置していると思うので、特別支援教育の授業改善の視点の取組も希望します。</p>
山下教育長	御意見ありがとうございます。他にございますか。
今關委員	<p>特別支援学級の話に関連することで、特別支援学校では TT (Team Teaching) で複数の人で 1 つの学級を見るのが当たり前だと思います。現在の通常学級の方では教科担任制のクラスもあり、教科の担当の先生の目が入るところもあると思いますが、通常の運営は担任の先生が担っていると思います。</p> <p>特別な支援を必要としている児童生徒を誰がどのような方法付けをしているのか、例えば、どのように育てたいのか、どのような力をつけてさせたいのか、専門的な判断も必要と考えます。</p>
	<p>他にも富津市だと君津特別支援学校と連携を取っていると思いますが、具体的なことをすぐに相談できる環境が必要であると思います。同じように通常学級の方でも TT は教員人数の問題もあり、厳しいですが、2 人以上で 1 つの学級を運営していく教員配置ができなければと思います。特に初任の先生に最初は初任者指導の先生がつきますが、2 年目以降は自分の力でやらなくてはいけないので、誰に相談するか、誰にアドバイスをもらうのか、1 人でもフリーの先生がいると少しは楽になるのではないかと感じます。職員の人数の関係で難しいと思うが、少しでも改善できるような流れになればいいと思います。</p>
山下教育長	他にございますか。
高橋市長	<p>(4) の人材育成で、先生方の指導力の不足はあるが、指導力というものは、教える力がないのか、聞かせる力がないのかどちらを指しますか。</p> <p>自分たちが小学校を卒業する 50 年近く前は、授業を聞く先生というと、怖い先生や一生懸命やってくれる先生、授業の面白い先生など、それぞれの特色がありました。指導力が不足しているというのは、子どもたちが聞いても理解ができない指導力なのか、聞かせる力がないほうの指導力なのか教えてください。</p>
山下教育長	指導力は市長がおっしゃられたすべてです。例えばですが、授業が面白

	<p>くないと聞かない児童生徒が多いです。それでも4月は聞いてくれますが3日や1週間経ち、授業が面白くない、理解できないと思ったら話を聞かなくなる児童生徒が多くなります。もう一つは怖い先生です。怖い先生の前では話を聞きますが、その先生が不在で他の先生が入ったときに話を聞くかというと聞かない、席から離れるなど、子どもとの人間関係のすべてを含めて指導力なので、怖くなくても人気の高い先生の授業は話を聞いています。研修が必要といわれますが、研修に必要なのは研究と修養だと私は思っていて、研究の部分は、授業に対してどう指導していくのかといった専門性を高めることだと思います。修養は自分自身の人間性を高めて、いろいろな物差しで子どもや学校を見るなどコミュニケーション力をつける修養の部分が必要になります。研究と修養で研修だと思いますので、指導力というのは両方入ると考えます。</p> <p>特別支援教育については、個別の指導計画、支援計画をもとに実際やつていて、教育事務所に特別支援アドバイザーの方がいるので要請をし、回数は多くないですが来てもらっています。</p> <p>義務標準法で職員の数が決まっているので先ほどのTTなどは市の補助職員を配置しています。加えて、これだけ特別支援学級が増えてしまうと、誰もが特別支援学級の担任ができる状況を作らなくてはいけないところであります。例えば、5年6年目で特別支援学級を経験して、どこの学級になんでも対応できる教職員を育てていかなければならぬと思っています。実際にやられている学校もあるので、特別支援学級を含めて授業改善「授業でカエル」を進めていきたいと思います。</p> <p>他にございますか。</p>
嶋野委員	<p>(1) の挨拶の件ですが、富津市の児童生徒は挨拶ができている方だと思います。道ですれ違っても挨拶をしない子はいますが、こちらから挨拶をすれば必ず挨拶をしてくれます。児童生徒のほうから挨拶ができるようになるのが理想ですが、基本的に挨拶は家庭のしつけの1つだと思います。子どものしつけは学校ではなく保護者が1番の責任者だと思いますので、家庭内での挨拶を習慣づけることが大切だと思います。子どもに挨拶を指導するよりも、保護者や地域の人、学校の先生が大きな声で挨拶をするのを心がければ自然に子どもも挨拶ができるようになると思います。まず大人から挨拶をしていくのが1番だと思います。</p>

藤平委員	<p>朝の登校の見守りを始めて5、6年経ちますが、だんだん雰囲気が変わってきたていると思います。やはり学校の中で挨拶をしようというよりも、感謝する、顔と顔で繋がる心地良さを総合学習や道徳や日常の学校生活で体験する機会が学校であるとのでは、外に出た際に違いが現れるのではないかと思いました。</p> <p>また、学校の統廃合によって、学区の広域化が図られスクールバス通学になり、子どもの姿が見えない地域が多くなると思います。子どもと地域を結びつけるコミュニケーションは挨拶が一番という思いを強く持ちましたので、例えばコミュニティスクールの場で挨拶を広めていく、子どもと地域が学校以外の場所で何か集う場を作り、コミュニケーションを取るなど、学校運営協議会の中で議題としてもいいのではないかと思いました。</p>
池田委員	
山下教育長	
高橋市長	<p>私も先日一時停止したときに、小学生の子がお辞儀してくれてとても良い気持ちになりましたので、とても実感しております。</p> <p>他にございますか。</p>
	<p>教育委員の皆さんもお気づきかと思いますが、富津市役所も目標の中の一つに「笑顔とあいさつ」を掲げていて、今でも正面入り口に飾っています。職員の採用試験であったり、1年目の職員との意見交換の場で挨拶はできているかと必ず聞くようしています。</p>
	<p>私も100%できているかはわかりませんが、職員と朝会った時、新規採用職員でも部長職でも挨拶をするよう努めています。先ほど嶋野委員が言ったように訓練と環境で繰り返しやっていくしかないと思います。やはり挨拶ができない一つの要因に恥ずかしいと感じる人もいると思いますがそうでなく、常に続けて、恥ずかしくないことを感じさせることが大事だと思います。学校の中でも、地域の皆さん、家族に何かしらの機会に、学校では挨拶を大切しようと伝えているので、家でもこれまでと同様もしくはこ</p>

	<p>これまで以上に挨拶に取り組んでほしいというような話をすることも大事だと感じていますが、簡単なことではないと思います。</p> <p>私も朝、毎日同じコースを歩いていて挨拶をしても返してくれなかつた方が、数か月経つて頭を下てくれるようになり、また少し経つと、「おはよう」と小さな声でも返してくれると気持ちが良くなります。それが伝わって相手の声がだんだん大きくなてくると、その人の姿が見えるだけで、嬉しくなるような思いもあるので、学校でも挨拶が恥ずかしくないと感じ続けてもらえると、みんなが気持ちよく時間を過ごせるようになると思います。学校も挨拶で始まり挨拶で終わっていると思いますが、授業の前後だけでなく朝や帰りにもできるようになるのが良いのかなと、地道にやっていく必要があると思います。</p>
山下教育長	<p>習慣化されてしまえば恥ずかしさは消えていきます。やはり子どもの声は明るく、雰囲気を和ませることが多いので、活性化にも繋がると思います。子どもの方から挨拶のできる地域を作つていけたらいいと思います。</p> <p>他にございますか。</p>
今關委員	<p>(2) の富津市の風土を生かした学習となると、海や山など素敵なもののがたくさんありますが、子どもたちがそれに対してどのように興味を持つていいけるか、与えられるよりも自分から興味関心を高めていいけるか、企画運営を自分たちで考える方がいいと思います。授業が精査されていく中で、新たに作つていくのは難しいことありますが、町ぐるみで地域を巻き込んだ活動にできないかと思います。PTAの活動も人数が少なく、資源回収の実施がなくなる話などを聞くことがあります。私もPTAをやっていたので肌で感じていますが、例えば「ごみスポ」というものがあり、企業がゴミ拾いをスポーツにするという取組で、依頼されたらその町でごみ拾いスポーツ大会を開催し、ごみに点数をつけ、スポーツ化してチームごとに対戦するというものです。それを町ぐるみでできないかと思います。子どもたちが企画運営するような形にすれば子どもと地域を繋げ、運営することについても学べ、企業団体と話し、相談をすることもできます。地域を巻き込むので、地域の人との話し合いにもでき、地域の人も子どもとコミュニケーションを取る場面も出てくるので、お互いを知ることができ、先ほどの挨拶ではないけど、「あっ！この人知ってるから挨拶をしよう。」と思うきっかけになると思います。それを学校の中だけで子どもたちと先生でや</p>

	<p>のは難しいので、市も巻き込んで、鋸山なども活用してうまくできなかと思います。</p> <p>もうひとつ、内裏塚古墳群をどうしたらいいのかなというところでは、子どもたちにどうしたらバズると思うのか、実際に意見を吸い上げてみるのはいかがかと思います。子どもたちはSNSへの関心が高く、大人よりも詳しいのではないかと思います。ただ、子どもたちだけでやると、危険なことや超えてはいけないことをしてしまうことがあるので、それを先生が見て、良いことと駄目なことを教えることによって、SNS対応の仕方も勉強になるとも思いました。</p>
山下教育長	<p>今までにない意見をいただきたかったので、町ぐるみでの企画運営など、子どもに任せると意外と教員が思う限界を超えてくることがありますので是非やってみたいと思いました。内裏塚古墳群についても子どもたちに聞いてみるのは面白いと思いました。今は1人1台タブレットを持っているので、活用してできるのかなと思いました。</p> <p>他にございますか。</p>
高橋市長	<p>(2) の、富津市の環境風土を生かした学習はすごく大事なものだと思いますが、やはり市内に在住の先生が全体の7.2%、112人で富津市出身の人が今後増えれば大きな課題ではないですが、私自身が心配するのは、この授業を進めるのに、富津市のことあまり知らない先生が多いと、授業の進め方が難しいのではないかと思います。</p> <p>学校の先生が非常に忙しいのは承知していますが、市役所でも最近では、ありがたいことに市外在住の職員も増えていているので、研修の一環として、市内を一日巡る研修をしています。職員として市がどういうところなのかを市民の人や、市外に訴えていく必要があるという意味で、本当に主な場所にしか行けませんが、研修を実施しています。先生方もそのようなことが課題であれば、市と協力して、カリキュラムの中で、時間が取れれば新規採用職員なのか、ベテランでも初めて富津市に来た人なのか、それは現場の先生方が決めることですが、今まで富津市とあまり縁がなかった先生だとこの目標に関してのアプローチが、少し遠回りする気がしますがこのような課題を感じることはありますか。</p>
川島所長	<p>夏の教職員研修の中で、新富地区など地域を決め、市内を巡る研修をしています。今まででは、希望の研修なので、新規採用職員や、他市から来た</p>

	<p>時に必ずと行うなど条件を付けていくともっと広がっていくと思うので、検討していきたいと思います。</p>
高橋市長	<p>少し安心したと同時に希望ではなく必要だと思い、研修として取り組めるようなものが作れるのであれば、これを実現するために大きな力になるのではないかと思います。</p>
山下教育長	<p>他にございますか。</p>
嶋野委員	<p>私は、児童生徒に学力をつけさせる部分にプラスして、社会に出て活躍できる力を身につけさせることが大切だと思います。実際に今の企業が求めている人材は、コミュニケーション能力、意欲、主体性、専門的なスキル、課題解決能力、協調性などで、学力が高いだけの人を求めてはいません。進学のためだけの勉強なら、私は塾だけ通っていればいいと思いますし、学校は学力よりも社会に出て役立つ能力、人間性、生きる力を育てるべきだと思います。富津市ならではの特色のある教育を作り出すために、地域の人に一緒に学ぶ学校、地域に開かれた学校はどうでしょうか。</p> <p>将来地域を担う人材、企業が求めてくれる人材づくりのできる教育を目標にしていくのがよいと思います。そうすることで、自然と子どもの学力が上がっていくような気もします。そこで私の考えた地域と一緒に学ぶ学校、地域に開かれた学校の具体的な提案として、実際に取り組んでいるものもありますが、いくつか紹介します。</p> <p>一つ目は、富津市出身または在住の様々な分野で活躍したり、活躍しているスポーツ選手、音楽家、芸術家、富津市の産業だと水産業の方、製造業、観光業、農業の方々に話を聞く機会を今よりも多く、地域の方の得意な分野を授業してもらうことです。スポーツ、音楽、地域の歴史文化、技術家、郷土料理など地域の人の中にも、元教員の方や、子どもたちに自分の職業を教えたいと思っている人もいると思います。実際の授業でなくても、放課後や土曜日日曜日など塾等に通っていない児童生徒を中心に教えたり、大人も学べる学習として、希望者を募って児童生徒と一緒に授業を受けてもらう機会を作るといいと思います。メリットとして、児童生徒は大人と一緒に新鮮味を感じ緊張感が生まれ、やる気が増すと思います。大人も少し勉強してみたいと思う人もいるだろうし、教員も大人に指導することで指導力のアップにつながると思います。そして、授業を受けた大人は、教員の指導法を評価することもできます。</p>

	<p>児童生徒に地域の抱える課題解決に取り組んでもらうプロジェクト型学習が理想ですが、富津市では少子化、人口減少の問題を話し合うことで、課題解決能力を養えることにも繋がると思います。児童生徒の保護者をはじめ、地域の人と、先ほど話に出ましたが、合同で美化活動のボランティア活動を行ったり、何か一緒に体験したり、保護者や、地域の人に学校をオープンにし、授業参観の日を決めずに、いつでも児童生徒の様子を見られるようにする。これは安全面、防犯面から課題があると思いますが、逆にいつでも学校にいることによって、不審者の侵入を防ぐことができるかもしれません。安全というのは壁ではなく人間が守るべきだと私は思います。</p> <p>これらはすべて例えではありますが、地域と一緒に学ぶ学校、地域に開かれた学校、特色のある学校教育を目指していき、いつか実現できたら素敵なことだと私は思います。</p>
山下教育長	<p>開かれた学校ということでは、ずっと目指していることではありますので、時間の都合で、一つ一つにお応えできませんが、いただいた意見を参考に活かしていきたいと思います。</p> <p>もう一点、学力というのは、国語、算数、理科、社会の点数だけでなく、生きる力、コミュニケーション能力など全部を含めて学力で良いと思います。例えば、授業の中で、話を聞くとか自分の意見を言うなどすべてを含めて学力だと捉えていますので、テストで測れる学力も大事ですが、それを含めた生きる力などもつけていきたいと思います。</p> <p>他にございますか。</p>
藤平委員	<p>昨今、地域の力を借りたいという話で、草刈りや学習サポートが出ていましたが、富津市として、学校支援ボランティアを組織していくにあたって、学校のニーズがわからず、学校が今何を欲しているのか、地域の人の力をどのようにして借りたいのだろうというところが、もっと明確になれば、やれること、活かせることが見つかり、地域の方の参加意欲や参加機会の確保に繋がると思います。その通りに行くかわからないですが、何でもいいから手伝ってくださいではなく、明確にすることで、地域の方も動きやすいと思いますし、地域の声を拾うには、コミュニティスクールがとても重要だと思います。</p>
山下教育長	他にございませんでしょうか。

	無いようですので、本日の議題は終了とします。 最後に、事務局からお知らせがあります。
樋口課長	はい。御協議いただきましてありがとうございました。 引き続き、教育委員会定例会を開催いたします。 一旦休憩とし、開始は11時5分といたしますので、よろしくお願ひします。
山下教育長	以上で、令和7年度第1回富津市総合教育会議を終了します。